

土木建築 工事基本知識講座

保線作業と地盤 理學士 江畑弘毅

一般土木工事に應用自在なる 岩盤及び地盤に對する一般的判定法……(5)

地切りは如何なる地盤に起るか、堰堤の基礎は如何なる岩盤が良いか、或は自然の地盤や岩盤に對し如何なる切り取り方法をしたら良いか、所謂工事の合理的施工をなす爲めに先づ此の地盤の常識を有つ事が必要である。

江畑理學士は鐵道省保線講話會に於て「保線作業と地盤」なる題の下に有益なる研究を發表された、而して其講演は以上の諸問題に對し最も通俗的に且つ系統的に解決を與へたもので、所謂從來の土木地質學に一新生面を拓いたものである。本文は一月號より繼續してゐる。(編者)

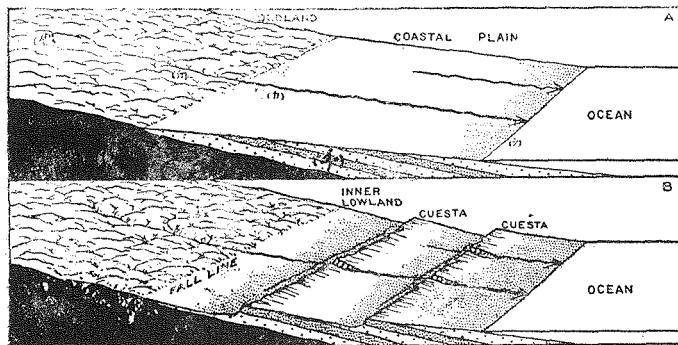
(3) 地盤の起伏(地形)

由來地盤なるものは色々の原因で、千差萬様の起伏状態(地貌)を現してゐます。しかも此の起伏状態の如何は地盤の特性と相並んで、保線作業と關係する處甚だ大なるものでありますから、此の起伏状態の種類、原因等に就て少し考を進めて見たいと思ひます。

地盤の起伏、即ち地形は之を大局的に分割すると凡て次の様になります。

尙進んで、此の平地、台地及び山地を更に

第21圖 隆起平野の地形的變化



A圖は幼年期に於ける海岸平野で、土地の隆起作用の爲め海底沈積層(チ)は海岸平野として、水平線(シ)上に廣く現れ、既存の河川(カ)はこれが爲めの流を次第に舊臺地(カ)の内部へと進めて行く。
B圖は上記の海岸平野が其後永年の間河川の浸蝕作用に委ねられ、爲めに壯年期の地貌を現す様になつた。

地 系	水 系
A 平 地 (低地、平野)	河川—湖沼—海洋
B 台 地 (高原、高台)	盆 地
C 山 地 (山 嶽)	谷

局部的に仔細に觀察しますと、夫々には又特有の局所的小起伏の存在を多く認めるものであります。故に之等に就ては夫々の處で其都度順を追つて説明する筈であります。